令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	富士山河口湖音楽祭実行委員会
施設名	河口湖ステラシアター
内定額	6,615　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
人-01	音楽のまちづくりプロジェクト 上野耕平等演奏家による「学ぶ・感じる」音楽アカデミープログラム	R7.8.9	河口湖ステラシアター
人-02	音楽のまちづくり 交流促進プロジェクト 中学生吹奏楽特別バンド他、音楽活性化育成プログラム	R7/7/26～８/4	さくやホール・河口湖ステラシアター
人-03	音楽のまちづくり 交流促進プロジェクト 音楽祭特別合唱団　音楽活性化育成プロジェクト	R7/6/14～8/16	さくやホール・河口湖ステラシアター
人-04	音楽のまちづくりプロジェクト 文化ボランティアの推進と若年層ボランティアのための 音楽を通じた育成プログラム	R7/8/6～8/25	ステラシアター・円形ホール
人-05	アーティスト・イン・レジデンス 打楽器奏者池上英樹による 音楽祭特別編成・若手演奏家育成アカデミープロジェクト	R7/8/12～8/16	ステラシアター・円形ホール
普-01	演奏家と共に楽器になる木を育てよう森のコンサート　～豊富な自然の中で音楽に親しむ～	R7/8/10～8/11	森の音楽堂
普-02	演奏家による音楽普及演奏会プロジェクト　街中が音楽いっぱい　～音楽を身近にもっと楽しく～	R7/7/26～8/3、8/11、8/21・22	河口湖町船津公民館　ショッピングセンターベル　他
普-03	子どものための音楽プロジェクト　～海外演奏家と音楽を通して心の交流～	R7/6/30,11/28	西浜小・河口湖北中・大嵐小・小立小
普-04	高齢者のための音楽プロジェクト　～海外演奏家と音楽を通して心の交流～	R7/6/30,11/28	デイサービスはるみさんち

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		74	78	84
		公演事業	9	6	6
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
		人材養成事業	61	60	65
		（内、本助成対象事業本数）	0	5	30
		普及啓発事業	4	12	13
		（内、本助成対象事業本数）	4	4	7
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　記入してください	0	0	

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	150	196	155
	ホール名：河口湖ステラシアター（大ホール）　座席数：記入してください	60	72	63
	ホール名：河口湖ステラシアター（小ホール）　座席数：記入してください	10	28	22
	ホール名：河口湖円形ホール　座席数：記入してください	80	96	70
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		22,136	26,443	14,937
		公演事業	20,880	24,933	13,661
		人材養成事業	406	500	201
		普及啓発事業	850	1,010	1,075
		共生社会事業			
		その他　内容：	0	0	
	貸館事業入場者・参加者数		23,000	38,035	30,046
	その他　内容：記入してください		0	0	0
	計		45,136	64,478	44,983
開館日数			307	307	307
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））			307	307	307
施設の利用日数			63	52	63
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）			20.5%	16.9%	20.5%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	24	20,880		6				2	1
	共催・提携公演（※2）	8	8	5,300		6					2
	貸館公演	14	17	23,000		11				1	2
	計	31	49	49,180							
令和6年度	主催公演（※1）	6	14	24,933		5					1
	共催・提携公演（※2）	4	6	7,533		3					1
	貸館公演	21	29	34,280		14					7
	計	31	49	66,746							
令和7年度	主催公演（※1）	6	18	13,661		5					1
	共催・提携公演（※2）	5	8	14,850		4					1
	貸館公演	9	9	30,046							9
	計	20	35	58,557							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	富士山河口湖音楽祭実行委員会
施設名	河口湖ステラシアター
内定額	6,615　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	「創造性・企画性」に関して、追加で設定する場合はここに記入してください。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業	1.演奏家による音楽アカデミーへの応募者数 2.一般公募事業の参加者数増加 3.公募事業参加者の実施後の反応	1 オンラインによるレッスン&受講・・・閲覧数 100 名 2.中学生バンド参加者数・・・70 名/特別合唱団…50 名 3.各学校・合唱団指導者へのリサーチで概ね好評価を得る	1.中学生バンド等編成２、打楽器マスタークラス１、合唱団編成１、合計４ 2.中学生特別バンド参加実績数 137 人/中学生ＯＢバンド参加実績数 人/特別合唱団参加実績数 297 人 3.各学校の児童生徒、指導者から概ね高評価を得る。
普及啓発事業	1.円形ホール公演(100 名収容小規模ホール)の公演数 2.観客・関係者へのアンケートおよび評価	1.円形ホール公演 5 公演以上 2.「とても良かった」「良かった」との回答 80%以上	1.音楽祭円形ホール公演数７公演 2 回答 80%以上が満足のいく回答
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　河口湖ステラシアター

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	富士山河口湖音楽祭は住民の皆さんと共に作り上げる住民参加型創造音楽祭として取り組んでいることを特徴としている。その中で、オリジナルプログラムとして、海外演奏家と直接かかわりながらホール企画制作による事業ができることを最大限に活かし、住民ボランティア、学校各先生とも連携しながら、子供たちに生の本物に触れる機会を作っている。世界で活躍する演奏家による演奏を身近に感じる機会となり、本物に触れる機会を養う機会なっている。併せて、演奏家との交流から外国語にも触れる機会にもなっており、将来のホール運営にもつながる機会になる重要なプログラムとしている。 毎年この人材養成活動の一つにある演奏家による音楽アカデミーのプロジェクトでは演奏家との共演を一つのプログラムとしている。この共演に向け、子どもたちは本番までに、合奏の成功を想像しながら日々練習を重ねている。本番では、演奏家が音楽で子どもたちを先導し、曲が完成していく様子は鳥肌が立つような感動的な瞬間である。一生懸命なその演奏は、その場でしか味わえない忘れられない経験となり、元気づけられ明日への活力となることだと実感している。 また、毎年参加募集をしている特別合唱団プログラムではプレ演奏会、本番に出演の為、合唱指導の下合唱練習に参加してもらう。こうしたプログラムで県内、地区内の合唱団の交流の場にもつながり、結果参加者にとっても満足のゆくプログラムになると実感している。 富士山河口湖音楽祭のプログラムを通じて、地域のみならず、全国に音楽の大切さ、文化プログラムを開催できたことの意義を共有できたことと思われ、こうした動きが令和６年度の富士山河口湖音楽祭の開催につながったと考える。

普及啓発事業	
自己評価	音楽を身近にもっと楽しく！をスローガンに、２００２年から開催している富士山河口湖音楽祭は、開設当初からホール以外でのアウトリーチ事業や教育プログラムを重要事業としてプログラムを構築している。その中でホール独自プログラムとして、海外演奏家と直接かかわりながらホール企画制作による事業ができることを最大限に活かし、住民ボランティア、学校各先生とも連携しながら、子供たちに生の本物に触れる機会を作っている。世界で活躍する演奏家による演奏を身近に感じる機会となり、本物に触れる機会を養う機会となっている。併せて、演奏家との交流から外国語にも触れる機会にもなっており、将来のホール運営にもつながる機会になる重要なプログラムとしている。 毎年この機会を通じて、子供たちにとって音楽を身近に感じる環境を作っていく。ただ、町内の学校すべての会場で演奏会を実施することは難しく、音楽に触れる機会が得られない学校もある。平等に機会を共有する観点から、円形ホールでの演奏会を学校観劇教室の一環としても位置付け、児童生徒を招待している。より多くの地元住民である皆さんに音楽を純粋に楽しんでもらう目的と、もう一つに、子どもと同じ空間・同じ音楽を聴くことで、自宅での共通の話題の一つになることをねらいとしている。一つのことを皆で楽しみ、話をする時間が必要であり、そこから生まれる温かい会話で、小さなことではあるが、殺伐とした日々から少しでも心が救われ、活力になっている。 富士山河口湖音楽祭のプログラムを通じて、地域のみならず、全国に音楽の大切さ、文化プログラムを開催できたことの意義を共有できたことと思われ、こうした動きが令和７年度の富士山河口湖音楽祭の開催につながったと考える。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	「国際性」に関して、追加で設定する場合はここに記入してください。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
１、演奏家の直接招へいするなど、音楽を通じた国際交流の場を作る。	１、海外からの直接招聘する演奏家の回数２、演奏会の回数３以上	・音楽祭プレ企画（採用事業）において海外の演奏家を招聘１回、演奏会５（学校、高齢者施設委含む） ・対象事業外ではあるが、 その他海外演奏者４組（８名）を招聘 ・円形ホールにおいてコンサート、町内学校でのアウトリーチ活動実施

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　河口湖ステラシアター

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	音楽祭での海外演奏家の招聘は本来２組を予定していたが、演奏家の都合により１組の来日となってしまったが、円形ホールでの演奏会の実施、町内学校、福祉施設でのアウトリーチ活動を実施した。演奏会にはスタッフをはじめ、ボランティアの方々、実行委員会の方々など多くの地域住民とも接する機会となった。また、海外の演奏家の招聘にあたり、お客様が普段は味わうことができない国内とは異なる雰囲気の演奏を聴くことで、国内の文化レベル向上のみならず、海外演奏者の人的交流や情報交換が行われる機会となった。 アウトリーチ活動では町内の学校に赴き生の演奏を届けることができた。これによって、子供たちの感性を刺激することだけにとどまらず、家族でのひと時を過ごすときの話題として架け橋になっている。また、福祉施設では入居者からプレゼントを頂戴したり、交流をする機会となっており、演奏会に向かうことが困難な方も演奏を聴く機会になる。そのため、長期的な活動をする目的の一つとして地域の方に支えていただくことが不可欠であり、そのためのきっかけを作成するために海外からのアーティストを招聘することが国際性につながっている。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	お客様と対話しながら気持ちよく利用していただくことを意識して取り組んでいる
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
1.学校公演を実施する町内小中学校数 2.子ども達の音楽プロジェクトに関わる支援体制 3.出張演奏を実施する高齢者施設数 4.文化・若年層ボランティアの育成 5.レストラン、ショッピングセンター、鉄道等ホール側連携にともなう貸館事業連携	1.小学校３か所、中学校１か所 2.35 名以上 3.老人ホーム等２か所以上 4.音楽祭期間中の延べ参加者数 100 名以上" 5.一事業あたり３か所以上	"1.小学校 10 か所　※対象事業以外では、１０プログラム開催している。 2.35 名 387 名 3.１か所　※対象事業以外では、3 か所 4。244 名" 5、一事業あたり２か所

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	ホールの役割として、演奏家とのネットワークを活かして、一流演奏家等各演奏家の演奏会を気軽に楽しめる機会の充実を図るニーズがあると考えられる。併せて、地域住民に対して、住民が普段日常的に使っている各施設（病院、公民館、ショッピングセンター等）でも、良質な演奏会を開催し、音楽を身近に感じられる機会は住民の日々の生活に潤いを与え、特に病院や老人ホームなどでは高齢者に心和む音楽を届け、音楽で心安らぐ雰囲気を作っていくことが必要とされている。令和７年度は町内小中学校、老人ホームへも出向くことができ私たちが掲げる以下目的が実現できたのではないかと考える。 ・ホールが音楽祭の枠組みを作り実施する良質な演奏会を住民が鑑賞する機会を作り、住民の心豊かな生活環境作りに貢献する。 ・子どもたちへ生の本物の音楽を届けることで、その瞬間でしか聴くことのできない音楽の、感動やすばらしさを体験してもらう。その演奏会により、子どもたちの豊かな心をつくる一つの経験に繋げる。 ・ホールが海外から直接演奏家を招聘し、子どもたちとの演奏や簡単な英語を使って国際交流環境の充実を図る。 ・演奏家と子どもたちとの共演（校歌や音楽の授業で扱った曲や練習曲など）を実施することで、音楽を通じて地域とふれあう交流活動となり、子どもたちと演奏家が一緒に音楽を楽しむ機会の充実を図る。 ・会場へ足を運ぶことが身体的に困難な高齢者に対して演奏家自らが赴き演奏会を開催することで、生の音楽に触れる機会を提供し、住民の心豊かな生活環境作りに貢献する。 　引き続きこのような活動を大切にしながら、住民とともに考え・参加する「住民参加型創造音楽祭」として役割を持つべきだと考える。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・(プログラムの多様さ) プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ) アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・(アクセシビリティ) 障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
.ミニ演奏会(アウトリーチ事業)の実施数 2.若手演奏家の演奏機会	1.20 か所以上 2.5 か所以上"	1.15 回（音楽祭のみ） 2.3 か所

（※3）・(※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	ホールの役割として、将来的な人材育成のためのプログラムを実施する。音楽祭には重要な役割を果たす、音楽家によるアカデミープログラム、合唱と吹奏楽の特別編成プロジェクト、また地元運営文化ボランティアと音楽大学アートマネージメントコースで学ぶ学生との文化ボランティア活性化事業を開催する。この人材育成のプログラムは、将来のホール運営事業を支える重要なテーマとなる。ホールのプログラムに関わってもらいながら、ホールと人との結びつき、及びホールを支える人を育んでいる。また、普及活動としてホールから外へ出て観光施設や美術館などを会場にミニ演奏会も開催することから、地元住民のみならず県内外から来場者があった。森の中のコンサートでは１０年ほど前に植えた木々に実がなる木も出来てきており、事業の趣旨を説明し演奏会前に植樹作業を行った。中には１０年前に同イベントに参加し、植樹をされた高齢夫婦も参加され、このイベントを通じて心をつなぐ機会になった。こうした思いが劇場につながる下地となっており、事業を実施するねらいでもあり、ホールの基盤にもなっている。 音楽祭は８月２週間ほど開催し、今年の演奏家による音楽普及演奏会プロジェクトは、大都市圏では収容能力の高い会場で行われる演奏家による最高質の演奏を、１００名収容の河口湖円形ホールで演奏会を楽しむ機会を作ることができた。併せて、アウトリーチコンサートとして、どなたでもご鑑賞いただける美術館でのコンサート、老人福祉施設などで開催することができ、ふと訪れた会場で音楽を楽しむことにつながり、音楽を自ら楽しむ機会を作ることが難しい高齢者に生の本物の演奏を楽しむ機会を提供することができた。助成金をいただくことにより良質な音楽を身近に感じられる機会になり、こうした地道な活動ではあるが、地域におけるホール運営の理解につながり、オーケストラ演奏など大規模演奏会開催への住民理解へとつながる機会になった。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	・ ・ ・

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
音楽活性化プロジェクトの中の 25 年続いている企画において、国内を代表するサクソフォーン奏者であり指揮者　上野耕平が指導する中学生吹奏楽特別バンドとは、　音楽祭前に、県内各中学校に参加募集をかけ、決められた練習日程の中でその年に決められた楽譜とそれぞれの楽器で練習をし、本番を迎える。初めて会った仲間とのふれあいや暑い中の練習など　いろいろな思いの中で本番を迎えることにより、　演奏後は大きな達成感を抱き　中学生生活の中で素晴らしい思い出として残る。その素晴らしい経験を生かして大人に成長したときに、ある人は中学校の吹奏楽部の顧問になり子供たちのサポートに徹する。　自分と同じ思いをする子供たちの成長の手助けがしたいと一生懸命指導することに徹し、またある人は　ステラシアターに就職し、子供たちのサポートに徹する。　この企画を 25 年という長くつづけていたことが　一人の人の人生に大きな影響を与えることは感慨深いものがあると言えるだろう。
ホールが直接招聘する演奏家に対する住民の参加の仕組みを作る形で、町の直営のメリットを最大限に活かし、富士河口湖町オーストリア音楽国際交流委員会をホール内に設置し、住民と共に運営と展開を図っている。 6 人の委員が能動的に出演者と向き合い、食事の手配や準備、また、譜面台など備品の準備を行うなどできることを住民の皆さんにも枠組みを作る。そのことで演奏家も心広がる場面も多く、また広がり、住民参加型音楽祭として機能の強化、そして住民のホールの関りがより一層深まる機会となった。また、学校公演では、子供たちが終演後名残惜しそうに演奏家に握手を求め、それに呼応する演奏家との微笑ましいやりとりが生まれ、普段の学校活動とは違う学習環境を与え、そして、まなびの深まりを感じる場面が多くあった。また、老人福祉施設では、微笑む入所者が多く、普段は喋らない入所者も明るく元気になり、中には車いすで握手をねだる入所者もおり、普段の施設生活に潤いと喜びを与える機会となった。こうした一連の様子や演奏家自ら演奏した楽曲が人々の感動を深く作ることも演奏家自身も深く感じさせる機会となった。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	町内各企業様よりご協賛をいただく	フレンドリークラブ(ホール会員制度)加入数 現300 名程度
目標(値)（※２）	町内外５企業	会員特典の見直し、新規会員獲得、年間会員５００人以上
実績(値)	ホールの年間活動として、町内企業 3 社、町外企業様４社	会員数５14 人
団体の自己評価	町内のみならず、町外の企業様からも ご協賛頂いた。	入会を促すために通知を郵送など 告知を心掛け新規会員獲得につながった

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場･音楽堂等との事業連携や協力･支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※１）	様々なホールと連携し情報交換、チラシ配布など行う	町直営施設のためホールとしての長期計画を立て実行する
目標(値)（※２）	連携ホール：１以上	音楽祭等プロジェクト数：２以上
実績(値)	連携協力：３か所	音楽祭等住民参加プロジェクト企画数：３
団体の自己評価	事業の情報交換、チラシ配布等行い必要な連携を行う	今後も地域に還元できる施設として 計画を実施することが必要と考え、施設を直営として、長期目標のもとで実施している。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	(オ) 芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	(カ) 長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	ホールに外部プロデューサー１人、音楽祭の枠組で宮川彬良さんに音楽祭演出ディレクター	企画制作スタッフ２人
目標(値)（※2）	ホール：ステラシアタープロデューサー１人、音楽祭：プログラミングディレクター１人	企画制作スタッフ２人
実績(値)	ホールに外部プロデューサー１人、音楽祭の枠組で佐渡裕に音楽祭演出ディレクター	企画制作スタッフ２人
団体の自己評価	より専門性を帯びた施設運営を図るよう体制を整えている。	音楽祭の枠組みを３プロジェクト確立し、ホールが住民も含めたプロジェクト体制を確立している。

評価の観点	(キ) 専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	(ク) 職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	音楽大学卒業生やアートマネジメント専攻卒業生などの起用を積極的に行っている	館長、企画制作職員、総務職員による職務内容の分担がある
目標(値)（※2）	マネージメントコース２人受入れ	ステラシアタープロデューサー１人、館長１人、制作スタッフ２人
実績(値)	大学アートマネジメントコースの学生 2 人の受け入れ	ステラシアタープロデューサー１人、館長１人、制作スタッフ２人
団体の自己評価	インターンとして２人の学生を受け入れ 地域文化ボランティア交流プログラムとして仕組みを確立している。	町直営施設ではあるが、中期長期目標が確立しており、制作能力を発揮できる機能がある。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	若年層の雇用に努め、全体にバランスが取れた世代間となっている	女性管理職はないが、 半数が女性職員で様々なことへ取り組んでいる
目標(値)（※2）	３０代以下職員：３人以上	女性企画制作リーダー１人
実績(値)	３０代以下職員：３人	女性企画制作リーダー１人
団体の自己評価	従業員 8 人のうち 3 名は 20 代、30 代であり、幅広い年代が携わっている	現場管理の女性比率が高く、劇場運営の根幹は女性の体制に重きを置いている。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	必要な職員がいるときは、活用している	様々な規定を設定し、順守を心掛けている。
目標(値)（※2）	産休職員１人	町全体研修に参加する
実績(値)	産休職員１人	町全体研修１回
団体の自己評価	家庭と職場のバランスがより取りやすい職場にしていくために推進することが必要	互いに確認して情報セキュリティを遵守している

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	カスタマーハラスメント講習への参加	事業実施前に、音楽事務所等と必ず契約書を取り交わしている
目標(値)（※2）	町全体の研修に参加する	音楽祭開催に伴う契約書締結
実績(値)	町全体研修１回	音楽祭開催に伴う契約書締結
団体の自己評価	パワハラ、セクハラがないような職場の人間関係の構築ができている。 カスハラを無くすための仕組みを構築している。	今後も継続していく必要性がある

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
河口湖ステラシアターは平成７年５月開設以来、住民の参画をホール運営の根幹に据え、各コンサートを住民が鑑賞するだけではなく、来場者をもてなす側にも住民が立つ仕組みを作り運営している。一方で、観光地におけるホールの有り方を実践する場所であり、文化が経済をリードするまちづくりの中心施設でもあったことから、地元主要産業である観光に対して、文化芸術をマッチさせた事業展開を行う中心施設としてホールを活用し、町の生産性向上をけん引する施設としても位置づけている。平成１０年５月にオープン以来参画してきた文化ボランティアを中心メンバーと一緒に発展的に組織化していく中で、ステラシアターサポーターズクラブに名称も新しくして、ホール運営を主体とした文化ボランティア組織としてホールを支え、現在に至っている。 　河口湖ステラシアターを拠点として「音楽のまち富士河口湖」を目指し、音楽祭等のホールが中心となって行う音楽プログラムが、地域全体に広範囲に行われることにより、改めて音楽を身近に感じる機会となり、地域全体の芸術文化活動の更なる活性化、将来の人材育成や地域産業の生産性の向上につながることと思われる。また、良質な演奏会を住民が鑑賞する機会を作ることで、今後も住民の心豊かな環境に貢献することができ、事業を発案するところから住民の関りを作ることはホールを支えていく心の醸成に繋げる。各演奏会を通じて、ホールが住民交流の拠点となる環境を更に強化させながら、演奏家による良質な音楽を身近に触れ合う機会を作り、町中たくさんの場所で音楽を平等に楽しめる環境を作ることが私たちの役目ではないかと思う。 こうした地域住民が支えるホールとして、持続可能で地域に支えられるホールを目指して、各種事業を実施している。併せて、富士山河口湖音楽祭を拠点事業として、地域として深く住民とも向き合う機会となっており、文化度が益々深まっているように感じることができる。 また、富士山河口湖音楽祭はオリジナルプログラムとして、海外演奏家と直接かかわりながらホール企画制作による事業ができることを最大限に活かし、住民ボランティア、学校各先生とも連携しながら、子供たちに生の本物に触れる機会を作っている。世界で活躍する演奏家による演奏を身近に感じる機会となり、本物に触れる機会を養う機会となっている。併せて、演奏家との交流から外国語にも触れる機会にもなっており、将来のホール運営にもつながる機会になる重要なプログラムとしている。

備考